

■第1回 策定委員会

日時：令和6年1月9日（火）14時～16時

場所：池田市役所3階 府小会議室

出席者：尾崎委員、堀口委員、塩屋委員、南野委員、西田委員、樽谷委員、安岡委員、楠田委員、安原委員、尾上委員、瓦谷委員、西坂委員、村上委員

次第：議題

- 1 池田市の現状について
- 2 自殺対策計画について
- 3 その他

会議の経過

○開会あいさつ

○事務局・委員紹介並びに委嘱状の交付

○会長・副会長選出（会長：尾崎委員、副会長：南野委員）

○会の公開について案内（傍聴0名）

○事務局より池田市の現状について資料説明

【会長】

- ・説明のあった内容について何か質問や意見はあるだろうか。

【委員】

- ・資料を見て意外だったのは同居人がいる人が結構自殺していることだ。何かのSOSを出しているはずなので、その点をもう少しなんとかできる方法があればと思った。

【委員】

- ・今池田ではなかなか不登校の子どもが増えているなか、自殺データを見ても20代になって一気に増えており、そういった人が学校に通っていた時に不登校などを経験していた割合が多いのかなど傾向が気になる。
- ・授業でも道徳なども含めて命の大切さを扱っているが、不登校の子どもなどはそういった学校での取り組みが届かないところにあるので、何か手を打って行かなければと思う。

【会長】

- ・確かに不登校だと出席しなければ接点がない状況だ。

【委員】

- ・性年齢別のデータを見ると80代以上高齢者が多いようで、これは把握していなかったのが驚いている。もし原因がわかれば今後の支援策などもふくめ見えて来るのではないかと思う。

【委員】

- ・男性が50代で多いようだが、他の府や地域などと比べても多いのは何か原因があるのか。

- ・池田市の特性部分で、大体自殺の手前の状態としては鬱状態となっている。今は鬱に対する治療など大分確立されているし、貧困などもあるかもしれないが、一定治療方法は確立されている部分は疾患として治すプロセスにつなげていくのが大切だ。

【委員】

- ・長く民生委員をするなかでも自殺に関するような相談は1件も受けたことがない状況だ。自分以外でも聞いたことはない。高齢者関係などは問題を見つけやすいが、自殺を考えている人というのは見つけるのは困難で、どうすべきか悩む部分だ。

【会長】

- ・では計画について説明をお願いしたい。

○事務局より自殺対策計画について資料説明

【会長】

- ・事前に進捗シートを送付してあると思うが、進捗のなかで特に見ておいた方がいい項目などはあるか。

【委員】

- ・本当に悩んでいる人に寄り添える形の何かができないかと思う。

【会長】

- ・ひとつは身近に気軽に相談したり話をしたりという環境がなくなってきている時代だと感じる。また、環境があっても相談できるかということこれも難しく、家族も気付かないといったところを、では行政が拾うとなった場合、どのように拾い上げていくか課題だ。今はアウトリーチの手も限られている。身体的な反応があれば病院などから繋がっていくケースもあるかもしれないが、これも自身が病院へ行く気にならなければ出てこないケースだ。

【会長】

- ・自殺に関する情報を市の広報紙などには掲載しているのか。

【事務局】

- ・9月に自殺予防週間があるが、そこに併せて窓口等の情報も併せて広報している。

【会長】

- ・それが定期的に発信されていけば目に付きやすくなるだろうか。

【事務局】

- ・あとはティッシュの配布や、連絡先を記載したカードを各所に設置するなどは行っている。

【委員】

- ・それは進捗シートにある専用電話による相談にあたるのか。
- ・啓発に関しては、池田市のホームページで自殺に関するキーワードを入れてもこの番号が出てこない。自殺を考えていて役所に頼ろうというという気持ちがあってもつながりにくい状況にあると思う。

【会長】

- ・広報的な改善が必要だろう。

【事務局】

- ・ホームページに関しては至急対応したい。

【委員】

- ・予算がないのであればボランティアでそういう人を募集することはできないのか。いのちの電話などのように。

【会長】

- ・ボランティアをする人を養成研修しないと、逆自殺を促してしまうリスクもある。いのちの電話でもかなりしっかりと研修をしたうえで人材不足という実態がある。ボランティアがいれば有難い話なのだが、今度はそこへどのように研修を行えるかプログラムを考える必要がある。選択肢としては検討すべきだろう。

【事務局】

- ・いのちの電話ほど直接的ではないが、ゲートキーパーがある。ゲートキーパーは周りの人への気付き、そこからつないでいく役割を持たせるというものでこれは定期的に行っている。

【委員】

- ・ゲートキーパーは今回初めて知ったので、周知が必要だと思う。

【委員】

- ・子どもたちがネットの世界でさまざまな情報が得られるようになってしまい、昨年度中学生で事案が起こってしまったが残されたスマホのなかに自殺に関する検索履歴が大量にあった。

【会長】

- ・学校の先生自体もかなりのストレスで休職するケースが多い。家庭、友人関係、地域、先生がとらえ切れないところでも問題が起きていると思う。
- ・学校内で対応し防ぐ、電話相談できるようなものはあるのか。

【委員】

- ・府の番号の紹介などもあるし、校内でもカウンセラーを配置しており相談が可能だが、これも過密で予約が取れない状況だ。そうなるまでの教育において効果的な施策を考えなければならぬと思う。
- ・学校としても何とかしたいと思っているが、学校や先生を子どもたちもあまりあてにできないといった状態だ。一方ネットには必ず話を聞いてくれる誰かがおり、その人の無責任な言動でコントロールされてしまう。

【委員】

- ・府下の市町村の自殺対策の会議で、他市の教育委員会では子どもにSOSの出し方について道徳の授業などで取り入れているようだ。

【委員】

- ・相談に当たれる先生の育成も重要になってくると思う。

【会長】

- ・かかりつけ医について、医師会内で精神科へつなぐような研修はあるのか。

【委員】

- ・把握していない。ただ、かかりつけ医がファーストタッチであることも多々あるので、必要であればつなげていくし、まず何かを聞いてもらいたがっているなど感じることはよくあるので、うまく拾い上げてつなぐようにしている。

【委員】

- ・ゲートキーパーがもっと浸透してくれば、市の職員が各所で相談を受けた際につないでいけるように連携してカバーしあっていければと思う。

【会長】

- ・ネットワークをどうつくっていけるかという話にもなると思うので落とし込んでいきたい。

【委員】

- ・傾向として、最近は女性相談がコロナの影響なのか増えている。池田市の自殺特徴として女性の方が少ないということだが、女性相談が増えていることから今後周知していく必要があると感じている。そのなかで相談員の確保などの課題も解消していく必要があるだろう。

【会長】

- ・多くの意見をいただいたが、府からいわれている女性についてという部分に関してはあまり今日は議論に出てこなかったが、個人的には気がかりな部分だ。ここをどう施策のなかに組み込んでいけるかも検討が必要だ。
- ・ただ、ではなぜ女性が自殺するのか原因として明らかではない。現状はDVや離婚などが原因になっているといった話だが、その先の支援でどうその人のことを伝えていくかとなると個人情報などもありスムーズにはいかないのではないかと思われる。そこをどう乗り越えていくか、全職員研修を受けていく必要があるだろう。今後の予定のなかでしっかり組み込んでいければと思う。
- ・高齢者は民生委員などの活躍もありある程度何とかなると期待しているが、問題は50代男性だ。会社へは入り込めないし、この辺りを国や府とも連携しながら検討する必要があるだろう。そこまで計画に落とし込めるかは課題だが、できるだけ意見を取り込みながら池田市としてどういう計画をつくっていけるか検討したい。
- ・本日の意見も広報・啓発をどうするかというものが多かったと思うので、お願いしたい。
- ・他に意見がなければ以上としたい。

(以上)